

## 内山 充先生と薬剤師生涯研修制度～薬剤師認定制度認証機構の設立～

吉田 武美

薬剤師認定制度認証機構の設立に多大な貢献をされ、代表理事として薬剤師生涯研修制度を牽引された内山 充先生がご逝去された令和元年が暮れ行くにあたり、先生のこれまでの足跡と成し遂げた偉業を辿ることにします。

内山先生の薬剤師への温い、時に厳しいエールは、このコラム欄に「内山語録」とも言うべくして数多く掲載されています。その高尚な想いと文言は、時代を超えたものであり、当認証機構が刊行予定の15周年記念誌に収載し、長く緋けるようにします。なお、日本薬学会有功会員としての内山 充先生の追悼記事は、ファルマシア (55 (10), 962, 2019) に掲載されています。そこでは、内山先生が、薬学教育・研究、国研の研究と行政施策への科学的根拠の提供、さらに薬剤師の生涯学習・研修制度の充実・整備と幅広い活動をされたスケールの大きな先生であったことが分かります。先生が1987年に初めて提唱された評価の科学「レギュラトリーサイエンス」は、今や広く普及した科学となっていますが、科学技術が「真に人と社会に役立つ」という最終目的達成のために、最善の方法や行為を決める「的確な評価・判断」の科学であるとされています。

先生は、薬剤師が薬物療法はじめあらゆる場面で自ら考え、人々のために評価・判断(選択)をするレギュラトリーサイエンスは、薬剤師の職責の本質と喝破されています。また、先生が提案され、設立された薬剤師認定制度認証機構は、この国の医療職における初めての第三者評価による制度認証という新たな理念の構築とも言えるでしょう。

内山先生が薬剤師生涯学習・研修制度を認証するという理念構築は、薬剤師研修センター理事長をされていた20年以上前から温めておられました。

先生は、1999年から2003年にかけて、米国ASHPやACPEを訪問、重鎮の日本への招聘と講演を通して、薬学教育や薬剤師研修制度の認証、国家試験関連の意見聴取や講演会の開催などによる第三者評価・認証の重要性を確信されました。その後、薬剤師の卒後教育・研修に関連する学会・職能団体の参加・協力を呼びかけ、免許取得後の薬剤師が自ら積極的に習得した能力・適性を客観的に証明するための各種認証制度について、適切な基準を作成し、相互の調整を図り、評価を行うための準備会の開催を提案され、4回の制度の準備会議を開催し、主導されました。その結果、2004年5月に他の医療職に先駆けて、第三者評価機関としての認証機構の設立に至り、有限責任中間法人、一般社団法人を経て、平成22年7月に内閣府より公益社団法人として認定されるという先駆的役割を果たされました。その目的は、「薬剤師に対する各種の認定制度の整備、発展、普及を図ることにより、生涯学習を推進して薬剤師の資質及び専門性の向上に寄与し、もってわが国の医療環境の向上と国民の健康の確保に貢献すること」です。

先生は、役員、行政の方々及び認定制度委員等協力を得つつ、新法人の定款や関連の規則・規程、評価基準等の整備を先導的に行い、超人的な活動をなされています。先生

は、薬剤師が医療の場において求められ、信頼され、期待される職務を果たすためには、免許取得直後から生涯にわたる継続研修が必須であること、生涯研修を自己責任の下で行い、必要な能力・適性を備えていることの客観的証明として、各種認定などの資格証書を受ける必要性を強調されています。

薬剤師は、ジェネラリストを基盤に、変化の激しい薬物療法など専門領域での職能を発揮するために、常に自らの資質を向上して能力・適性を高め、業務内容の充実させることは、患者、医療従事者あるいは世間一般に対する社会的義務であるとされています。

先生が提案され、体制整備が進められ、設立された認証機構が認証する各種薬剤師認定制度は、25 生涯学修認定制度、6 特定領域認定制度その他 1 薬剤師認定制度があります。平成 28 年 2 月 10 日の中央社会保険医療協議会の答申において、かかりつけ薬剤師の取得要件の一つに、「薬剤師認定制度認証機構の認証する研修認定制度等の研修認定を取得していること」が挙げられ、当認証機構の果たす役割が社会的に大きく認知され、展開しています。各研修制度から輩出される認定薬剤師の数は、それ以前の年間 1 万数千人から、その後の数年は 4 万人前後を数えています。認定薬剤師の取得は、更新制であり、先生が目指し、期待されていた免許のあるべき姿の方向へと繋がっているようです。また、薬剤師生涯研修制度等の認証は、社会保険医療制度と密接に関連することから、認定薬剤師を輩出する各制度は、アウトカムの質を高め、保証することが求められます。内山先生が、薬剤師職能に対する深い思いと、社会的信頼を高めるために啓蒙活動を進めてきたことが、確かなこととして展開しているその慧眼さに驚嘆の念を憶えるのみです。

内山先生が評価の科学レギュラトリーサイエンス、さらに薬剤師職能のあり方や方向性に対し、新しい理念や概念を提唱され、中長期的展望で指導されたことに深く感謝し、先生の世界をそれぞれが共有できることを望みつつ、ご冥福をお祈りいたします。

(2019. 12. 30)